

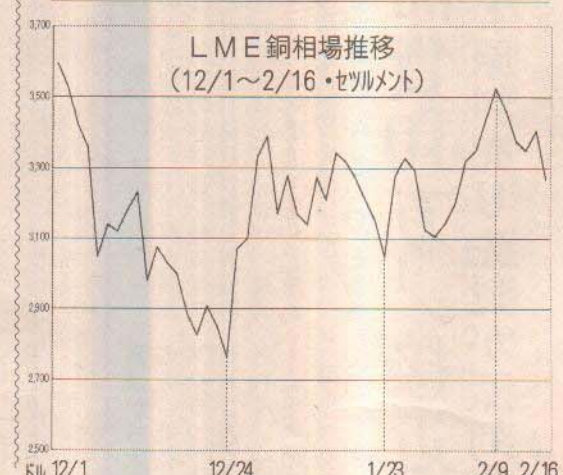
海外銅は小幅値動き

中国の需要環境は未だ不透明

非鉄原料
 関東地区の非鉄金属リサイクル原料市場は、伸銅向け銅・黄銅系原料が弱含み推移。

海外LMEは本年一月初頭から、三〇〇〇〜三五〇〇ドルのレンジで推移し続けており、比較的安定した動きとなっている。NYコメックス現物も一五〇〜一六〇セントで落ち着いた動きとなっている。

しかし、昨年十一月一日以来の四〇万円を期待された建値は、一万円下げの三六万円に改定された。



大阪非鉄講演会を開催

橋本氏講師に中国の動向を探る

大阪非鉄金属商工協同組合青年部では、橋本健一郎氏(橋本金属株式会社取締役)を講師に迎え、「日本及び中国の非鉄金属リサイクルの現状と展望」をタイトルに講演会を開催した。

世界の銅消費量のうち二五％は中国が占めており(〇七年の世界の消費量は一八〇〇万トン)、最大の消費国となっている。しかし、一人当たりの消費量は先進国と比べて少ないのが特徴で、需要環境は今後も伸びる余地がある。

その結果、全体としては年率五〜一〇％で増加見込みとしている。銅地金及び新リサイクル原料(製品加工過程で発生したリサイクル原料で、板・条の打ち抜き材や削り粉などを指す)は需要増加が見込まれる。反対に旧リサイクル原料(銅などを使用した製品が、消費

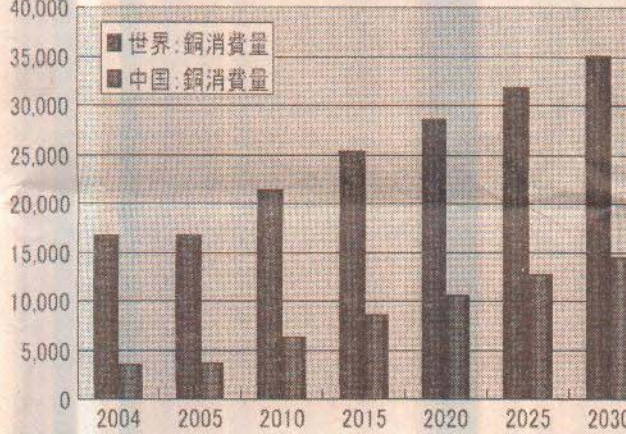
ス周りに品などを指す)は一〇年をピークにして減少する可能性もあるとした。

なお、日本メタル経済研究所では三〇年までの世界と中国の銅消費量予測として、一〇年は世界で約二〇〇万トン、中国約六〇〇万トン、二〇

黄銅ドライ粉値推移

| 電気銅建値 | 銅月平均 | 亜鉛建値 | 鉛建値 | 黄銅ドライ上中下旬 |
|-------|-------|------|-----|-----------|
| 730 | — | 220 | 473 | — |
| 670 | 678.1 | 210 | 437 | — |
| 630 | 647.2 | 210 | 413 | — |
| 570 | 609.0 | 190 | 373 | — |
| 510 | 579.0 | 185 | 343 | — |
| 550 | 595.4 | 160 | 355 | — |
| 490 | 576.3 | 150 | 315 | — |
| 410 | 558.1 | 150 | 273 | — |
| 480 | 567.7 | 140 | 311 | — |
| 460 | — | 155 | 305 | — |
| 430 | 435.0 | 155 | 287 | — |
| 400 | 416.6 | 145 | 267 | — |
| 420 | 424.4 | 155 | 282 | — |
| 400 | — | 155 | 270 | — |
| 370 | 374.7 | 155 | 253 | — |
| 340 | 355.7 | 145 | 235 | — |
| 330 | 352.1 | 140 | 229 | — |
| 330 | 352.1 | 135 | 227 | — |
| 310 | 347.8 | 135 | 215 | — |
| 340 | — | 155 | 240 | — |
| 350 | 345.2 | 155 | 246 | — |
| 330 | 338.9 | 150 | 233 | — |
| 330 | — | 140 | 233 | — |
| 350 | 346.8 | 140 | 243 | — |
| 370 | 360.5 | 150 | 255 | — |
| 360 | 355.2 | 150 | 249 | — |

2030年までの世界及び中国の銅消費量予測



年は世界約二八〇〇万トン、中国約二一〇〇万トン。三〇年は世界約三五〇〇万トン、中国約一五〇〇万トンとして(グラフ参照)。

国内では伸銅品生産におけるリサイクル原料比率は、五六％となっている。銅系リサイクル原料の約八〇％は新リサイクル原料であり、その内訳は銅線三〇％、ナゲット一九％、上銅三〇％、その他二七％となっている。

新リサイクル原料の国内バランスを見ると、供給一六六万トンに対し、需要は一五三万トンと一三万トンの供給過多となる。しかし、供給のうち一二万トンは輸入のため、

それを抜くと需給はほぼ均衡し、新リサイクル原料は、まだ国内消費が主流であることがわかる。

だが、輸出量は九六年で六万トンだったものが、〇五〜〇七年は約四二万トン、〇八年は景気悪化により約三九万トンと減少したが、依然として高水準である。そのうち九〇％は中国向けだ。

一〇年まで国内の銅・黄銅系リサイクル原料の発生は大幅減少と見込まれているのに加え、輸出が増加すると国内の受給は直ちにひっ迫することになる。そのため、リサイクル原料問屋だけでなく、伸銅品に関係するあらゆる業界が連携し、安定供給を図る必要があるとした。